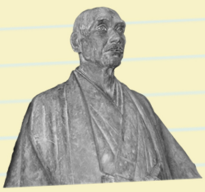
夢を追いかけて

高橋　長十郎（たかはし　ちょうじゅうろう）



嘉永2年～昭和8年（1849～1933）
製糸業家　南三陸町

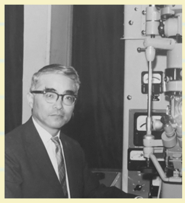
飢饉におびえながら暮らしていた人々の生活を豊かにするために，町の産業を生み出そうと考えました。養蚕が盛んだった南三陸町に，アメリカの機械を取り入れて製糸会社をつくりました。生産した生糸は，パリ万国博覧会でグランプリを受賞しました。

鈴木　哲朗（すずき　てつろう）

慶応2年～昭和8年（1866～1933）
水産事業家　気仙沼市

アメリカにわたり，働きながら漁法や経営学を学びました。日本にもどってからは，貧しい人々の暮らしを豊かにするために新しい漁業の方法を研究し，マグロ巻き網漁法を改良して遠洋漁業に取り組みました。誠実な人柄で，地域の発展のためにつくしました。

只野　文哉（ただの　ぶんや）



明治40年～平成17年（1907～2005）
電子技術者　岩沼市

電子顕微鏡の研究に興味をもち，実験にくり返し取り組みました。失敗をおそれない努力が実を結び,国産第1号の電子顕微鏡の開発に成功しました。また，長年にわたり，小･中学生に科学のおもしろさや科学技術のすばらしさを伝える活動を続けました。

神永　昭夫（かみなが　あきお）

昭和11年～平成5年（1936～1993）
柔道家　仙台市

中学時代に読んだ小説にあこがれて柔道を始めました。大学時代は柔道部の主将となり，全日本選手権で３度の優勝を果たしました。日本代表として出場した昭和３９年の東京オリンピックでは銀メダルを獲得し，その後は多くの柔道選手を育てました。

吉野　作造（よしの　さくぞう）

明治11年～昭和8年（1878～1933）
政治学者　大崎市

人々の幸せを願って，国民の考えを政治に取り入れた政治学者です。話合いによる問題解決が大切であることを，「デモクラシー」という言葉で表現しました。「国民のための国民による政治」を目指し，議会を中心とする政治の実現に力をつくしました。

園部　秀雄（そのべ　ひでお）

明治3年～昭和38年（1870～1963）
武道家　大崎市

薙刀ひとすじに生きた女性剣士です。東京の学校で指導していた時代には，「薙刀を持って試合をしているときだけが修行ではない。」と教えました。礼儀正しく，規律ある生活をすることの大切さを伝えるなど，薙刀を通して心をみがく教育を目指しました。

布施　辰治（ふせ　たつじ）

明治13年～昭和28年（1880～1953）
弁護士　石巻市

多くの人々が貧しい生活に苦しみ，不平等なあつかいを受けていた時代に，弁護士として活躍しました。弱い立場の人々を救うために法廷に立ち，正義をつらぬきました。「生きべくんば民衆と共に，死すべくんば民衆のために」という言葉を残しています。

千葉　亀雄（ちば　かめお）

明治11年～昭和10年（1878～1935）
ジャーナリスト･評論家　美里町

子供のころから本をたくさん読んで知識や考え方を身に付け，ジャーナリストや評論家として活躍する土台を築きました。新人の作家を育てたり，文学の新しい流れを世の中に広める活動を行ったりするなど，文学の世界に大きな功績を残しました。

星　泰三郎（ほし　たいざぶろう）

明治26年～昭和57年（1893～1982）
教育者　丸森町

３９年間一日も休まずに，図書館の館長として働きました。子供の喜びそうな本を自分で買って図書館に入れるなど，たくさんの子供たちが図書館に集まるよう工夫しました。また，子供だけでなく地域の人々にも，読書の楽しさやすばらしさを広めました。

及川　平治（おいかわ　へいじ）

明治8年～昭和14年（1875～1939）
教育者　栗原市

子供の個性を大切にした授業を行いました。知識を教えこむ授業に疑問をもち，グループ学習や教え合い学習，体験学習などを取り入れました。現在の教育の先取りとも言える授業で，その方法を学ぶために多くの参観者が教室を訪れました。